

事業の実施状況等について(受託者自己評価)

【住吉区】 (受託者:社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会)

1 取組実績の評価(1)

項目	ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
<p>(1)「I 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況</p> <p>「自律的運営に向けた地」</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 話し合い(議論の場)を大切に、議論のプロセスをデザイン化(見える化)し、やるべきことを明確化することで実現する強みを発揮する手法</p> <p>◆地域福祉の推進 区社協での実績を礎に、地域活動協議会形成時から支援を行っているまちセンとしての実績を活かし、緊密な連携を図り地域実情に応じた支援を実施。</p> <p>◆地域活動協議会の設立趣旨や目的の再確認・共有</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催。参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』の手法を用いての定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上している。 ただ、住吉区をあげての総合防災訓練にかかる地域での会議が多く開催され、地域の負担感が高く多くの開催には至らず反省している。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたテーマや現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催。テーマについて、の掘り下げを行い事業案の立案を実施。実現可能な事業案も多く立案された。 定期的な話し合いの場の必要性についての着実に認識も向上している。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された『地域編集塾』全体会を受けての開催。ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案された。</p> <p>◆地域福祉の推進 派遣元の区社協が受託事業実施を行っている『地域見守り支援システム』の構築について、綿密な連携を図りながら側面的支援が行えた。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 地活協の設立趣旨について、役員継承などにより意識の低下がみられるため、再確認・共有の場を提供し、より、自律・自立の組織運営と導かれるように促すことを目的に開催。参加者へのアンケート結果では、参加者の90%以上から良かったとの評価を受け、CB/SBや特徴的な活動・従事者確保のための取組みなどへの認識の向上といった効果が得られた。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があった。地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなった。 また、事業案を立案したためより具体的になり、地域が活性化されるといった効果が見られた。 また、事業案を発表することで、良い意味での地域間のライバル心が芽生えた。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、新たなつながり、また、拡がりが見られた。話し合いの場の重要性を感じていただくことができ、継続的開催の運びとなった。</p> <p>◆地域福祉の推進 『地域見守り支援システム』構築にかかる会議への参加やふれあい喫茶等の地域福祉活動への訪問等を通じて従事者との連携も図れている。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 先駆的实践者からの具体的な活動の講演により、今後の地域運営に対してのヒントを数多く得ていただけたように思います。 「今まで自分の活動に自負していたが、まだまだやるべきことがあると感じた。」や「補助金の有効活用することだけにとらわれていたが、幅広い活動に接して目からうろこが落ちた感じがした。」との感想も多く聞かれ、参加者から当日参加できなかった方への伝達も多くみられた。地活協の運営が、定着しつつある設立4年目のこの時期に開催したための効果は高いと感じている。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していく。 事業案の創出で終わらず、事業案の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していく。</p> <p>◆地域福祉の推進 今後も、地域・区役所・区社協と連携を深め、継続的に支援を行っていく。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか？～の開催 行政や中間支援組織からの情報伝達より、実践者の声の影響力の高さをあらためて強く感じた。 今後も、先駆的实践者による活動報告や同じ事業に従事する実践者間での話し合いの場を多く創出することにより地域間による相乗効果が得られるものと考え取組みを進めていく。</p>

業の実施状況	域活動協議会の取組(イメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動協議会の広報 ◆Twitterによる地域情報の発信 ◆地域事業にかかる広報物作成支援 ◆地域主催事業への参加・事業実施にかかる支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動協議会の広報 新たな地活協広報用のパンフレットを作成。区役所 地域課を通じてUR等マンションへの配架。地活協の認知度向上のため、配架先の拡充の必要を感じている。 また、広報「すみよし」あて、地域のベストプラクティスを寄稿し好事例の周知に努めている。 ◆Twitterによる地域情報の発信 各地域で開催の事業を事前告知や現地・後日レポートを実施。区内情報についても、リツイートするなど情報の拡散に努めているが、SNSよりも紙媒体を好む傾向も見られる。 ◆地域事業にかかる広報物作成支援 地域新聞作成やホームページ作成に向けての動きがみられ、各地域の実情に合わせた支援を実施。 また、周知・募集ポスターや注意喚起のポスター作成等の支援も行い地域より効果があがったとの報告も受けている。 ◆地域主催事業への参加・事業実施にかかる支援 事業実施の運営委員会等会議へ出向き、情報提供を実施。事業実施についても、中間支援組織として地域と区役所との連携に向けての連絡調整を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動協議会の広報 著しい伸びには欠けるが、認知度向上の努力はしている。 定着した事業では、地活協主催で実施していても、参加者には解りづらかったり、興味が薄かったりするため、認知度の向上につながっておらず、今後、『見せ方』『見え方』の工夫についての支援の必要性を感じている。 ◆Twitterによる地域情報の発信 情報発信機能としては、弱く感じるが、地域情報をツイッターに投稿することにより従事者の喜びにつながっている側面も見えることから、引き続いての情報発信を実施していく。 ◆地域事業にかかる広報物作成支援 地域での担い手の確保や担い手と役員層における世代間の連携にかかる調整を行い、緩やかにではあるが進展がみられる。 ◆地域主催事業への参加・事業実施にかかる支援 他地域での経験を活かし情報提供を実施。事業実施についても、来賓者名簿の整理やあいさつ文作成についても、相談を受けアドバイスを実施できた。 	<p>地活協運営についても、地域間差はあるものの定着が見られつつあるので新たな担い手の発掘や若い担い手の育成に力点を置き、講座やセミナー等の開催の好機と感ずる。</p>
	(3)「III 組織運営」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会等への出席 ◆補助金実務者会議の開催 ◆事務手続き等にかかる助言 	<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会等への出席 議事進行にかかる助言や議事録フォーマットの提供等支援を行えた。また、地域会議に従事することで、地域実態やニーズの把握が行え、関係機関への連絡調整も可能となっている。 ◆補助金実務者会議の開催 マニュアル・会計帳票・監査様式等を提供。会計処理についての説明についても、区内全体版・地域版・各事業担当者へときめ細やかに行えた。 ◆事務手続き等にかかる助言 補助金申請や精算に関して、各地域にフィットした対応を心がけました。 また、公募事業への参加・受託にかかる事務手続きについても地域の状況にあわせて支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会等への出席 地活協会長会議に従事することにより、運営委員会等での議事進行に関して、補足説明を行うなど依頼事項等の周知に有効であったと考える。 ◆補助金実務者会議の開催 総括会計担当者については、補助金の会計処理について着実にスキルの向上が見られる。 ◆事務手続きにかかる助言 各地域実情に応じた支援を心がけているため、補助金申請については、定着しつつあるが、精算については、煩雑であるためいまだ苦慮されている。 公募事業での手続きは、必要書類が多数必要であり、支援の必要性を強く感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会等への出席 地域担当制職員、区役所担当課と継続的に連携を図り引き続いての支援の必要性がある。 ◆補助金実務者会議の開催 会計担当者の変更も見られることから、継続的な支援の必要性がある。 ◆事務手続き等にかかる助言 補助金申請・精算については、煩雑であり挙証資料等も大量であることから引き続き継続的な支援の必要性がある。 公募事業に関しても、ビジネスの手法を用いることから引き続き継続的な支援の必要性がある。
	(4)「IV 区独自取組」にかかる支援の実施状況 <small>(区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)</small>				

2 取組実績の評価(2)

項目	ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	イ 支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
<p>(1) 自由提案による地域支援の実施状況</p> <p>(企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 話し合い(議論の場)を大切に、議論のプロセスをデザイン化(見える化)し、やるべきことを明確化することで実現する強みを発揮する手法</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 講師 NPO法人 南市岡地域活動協議会 理事長 松井 信一氏 スーパーバイザー 藤原 明 氏 *NPO法人化した南市岡地域活動協議会の取組みについて *『地域活動協議会』について</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催。参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』の手法を用いての定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上している。 ただ、住吉区をあげての総合防災訓練にかかる地域での会議が多く開催され、地域の負担感が多く多くの開催には至らず反省している。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたテーマや現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催。テーマについて、の掘り下げを行い事業案の立案を実施。実現可能な事業案も多く立案された。 定期的な話し合いの場の必要性についての着実に認識も向上している。</p> <p>【苅田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された『地域編集塾』全体会を受けての開催。ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的に実現可能な事業案が多数立案された。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 地活協の設立趣旨について、役員の継承などにより意識の低下がみられるため、再確認・共有の場を提供し、より、自律・自立の組織運営と導かれるように促すことを目的に開催。参加者へのアンケート結果では、参加者の90%以上から良かったとの評価を受け、CB/SBや特徴的な活動・従事者確保のための取組みなどへの認識の向上といった効果が得られた。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があった。地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなった。 また、事業案を立案したためより具体的になり、地域が活性化されるといった効果が見られた。 また、事業案を発表することで、良い意味での地域間のライバル心が芽生えた。</p> <p>【苅田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、新たなつながり、また、拡がりが見られた。話し合いの場の重要性を感じていただくことができ、継続的開催の運びとなった。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 先駆的实践者からの具体的な活動の講演により、今後の地域運営に対してのヒントを数多く得ていただけたように思います。 「今まで自分の活動に自負していたが、まだまだやるべきことがあると感じた。」や「補助金の有効活用することだけにとらわれていたが、幅広い活動に接して目からうろこが落ちた感じがした。」との感想も多く聞かれ、参加者から当日参加できなかった方への伝達も多くみられた。地活協の運営が、定着しつつある設立4年目のこの時期に開催したための効果は高いと感じている。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していく。 事業案の創出で終わらず、事業案の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していく。</p> <p>◆『“地活協”シンポジウム』～『地域活動協議会』の未来を想像してみませんか?～の開催 行政や中間支援組織からの情報伝達より、実践者の声の影響力の高さをあらためて強く感じた。 今後も、先駆的实践者による活動報告や同じ事業に従事する実践者間での話し合いの場を多く創出することにより地域間による相乗効果が得られるものと考え取組みを進めていく。</p>
<p>(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制</p>	<p>スーパーバイザー 1名 アドバイザー 1名 地域まちづくり支援員 3名</p>	<p>欠員なく配置でき、また、スーパーバイザーとの連携についても良好であった。</p>	<p>欠員なく配置でき、また、スーパーバイザーとの連携についても良好であった。</p>	<p>欠員なく配置でき、また、スーパーバイザーとの連携についても良好であった。</p>
<p>(2-2)フォロー(バックアップ)体制等</p>	<p>『地域編集塾』等で臨時的に増員が必要な場合は、受託元の住吉区社会福祉協議会や市社協などを中心に依頼を行いフォロー体制を組む。</p>	<p>『地域編集塾』等で臨時的に増員が必要な場合は、受託元の住吉区社会福祉協議会や区内地域包括支援センター・コミュニティソーシャルワーカーや市社協・他区社協が受託している他区まちづくりセンターへ協力要請を行うなど関係先や協力先とのフォロー体制が構築できている。 また、欠員や問題・課題が生じた場合は、住吉区社会福祉協議会への連絡を行い速やかな対処ができています。</p>	<p>『地域編集塾』では、社会福祉協議会のこれまでの実勢をベースに、ファシリテーターを務めるなどフォローアップ体制は、充分であった。</p>	<p>フォローアップ体制は、充分であり、今後についても引き続き体制維持する。</p>

<p>(3) 区のマネジメントに対応した取組</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 話し合い(議論の場)を大切に、議論のプロセスをデザイン化(見える化)し、やるべきことを明確化することで実現する強みを発揮する手法</p> <p>◆社会的ビジネス 企画提案の作成にかかる助言・支援 事業実施にかかる助言・支援 社会的ビジネスにかかる各種情報提供</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催。参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』の手法を用いての定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上している。 ただ、住吉区をあげての総合防災訓練にかかる地域での会議が多く開催され、地域の負担感が多く多くの開催には至らず反省している。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたテーマや現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催。テーマについて、の掘り下げを行い事業案の立案を実施。実現可能な事業案も多く立案された。 定期的な話し合いの場の必要性についての着実に認識も向上している。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された『地域編集塾』全体会を受けての開催。ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的に実現可能な事業案が多数立案された。</p> <p>◆社会的ビジネス 平成28年度については、2事業が3つの地域活動協議会において受託されており、順調に事業実施を行えている。 また、『“地活協”シンポジウム』に刺激を受け平成29年度の公募事業には、3事業に4つの地域活動協議会が申請準備を進められており、拡がりが見られている。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があった。地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなった。 また、事業案を立案したためより具体的になり、地域が活性化されるといった効果が見られた。 また、事業案を発表することで、良い意味での地域間のライバル心が芽生えた。</p> <p>【荻田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、新たなつながり、また、拡がりが見られた。話し合いの場の重要性を感じていただくことができ、継続的開催の運びとなった。</p> <p>◆社会的ビジネス 『“地活協”シンポジウム』の開催を契機に、多くの地域において社会的ビジネス(CB/SB)への関心が高まり地域活動においても活性化しており、新たな公募申請へとつながった。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していく。 事業案の創出で終わらず、事業案の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していく。</p> <p>◆社会的ビジネス ビジネスの手法を用いるため事務手続きが煩雑であるため、継続的な支援の必要性がある。</p>
----------------------------	--	---	--	--

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)に関する評価

支援策(取組)名称	ア 支援策(取組)の内容	イ 支援実績に対する自己評価	ウ 支援の有効性についての自己評価	エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
『地域編集塾』等ワークショップの開催	話し合い(議論の場)を大切に、議論のプロセスをデザイン化(見える化)し、やるべきことを明確化することで実現する強みを発揮する。	<p>◆『地域編集塾』の開催 社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催。参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』の手法を用いての定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上している。 ただ、住吉区をあげての総合防災訓練にかかる地域での会議が多く開催され、地域の負担感が多く開催には至らず反省している。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたテーマや現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催。テーマについて、の掘り下げを行い事業案の立案を実施。実現可能な事業案も多く立案された。定期的な話し合いの場の必要性についての着実に認識も向上している。</p> <p>【苅田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された『地域編集塾』全体会を受けての開催。ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案された。</p>	<p>【区内全体会】 地域状況に応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があった。地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなった。 また、事業案を立案したためより具体的になり、地域が活性化されるといった効果が見られた。 また、事業案を発表することで、良い意味での地域間のライバル心が芽生えた。</p> <p>【苅田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、新たなつながり、また、拡がりが見られた。話し合いの場の重要性を感じていただくことができ、継続的開催の運びとなった。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していく。 事業案の創出で終わらず、事業案の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していく。</p>
補助金実務者会議 会計説明会	補助金実務者会議・補助金会計処理説明会の開催	煩雑な会計処理については、まだ苦慮されているところが多く、また、会計に関する情報伝達が各事業担当者まで十分行き渡っていない状況が見られるため、説明会の対象者枠の拡大や地域に出向いての説明会や個別支援等きめ細やかに実施できた。	地域差はあるものの、当初多くの担当者が抱いておられた「やらされてる」感から「やるべきもの」「しないといけないこと」へと会計処理に対するイメージに変化が見られている。	総括会計担当者のスキルや意識の向上は多く見受けられるが、各事業担当者との温度差があるため、よりきめ細やかに各事業担当者へのアプローチを行う必要を感じる。
地域見守り支援システム (地域福祉の推進)	説明会等従事・資料作成	社会福祉協議会の強みを活かし、区社協・地域支援担当など各部門とも緊密に連携しており、地域福祉の取組みや会議にも参画し、つながりの拡充に寄与している。また、区社協全体で地域台帳作成に取り組んでおり、地域診断に反映させ地域ごとのきめの細かい支援につなげていく。	介護事業所や社会福祉法人を巻き込んだ会議・ワークショップも開催や検討がされ、地域福祉の充実に向けたネットワークづくりに関して社会福祉協議会の強みを活かした支援が行えた。	社会福祉協議会の強みを活かし、地域・区役所との橋渡し機能を発揮し、継続的に支援を進めていく。
社会的ビジネス	事業受託や実施にかかる支援・各種資料作成等	平成28年度については、2事業が3つの地域活動協議会において受託されており、順調に事業実施を行っている。 また、『“地活協”シンポジウム』に刺激を受け平成29年度の公募事業には、3事業に4つの地域活動協議会が申請準備を進められており、拡がりが見られている。	『“地活協”シンポジウム』の開催を契機に、多くの地域において社会的ビジネス(CB/SB)への関心が高まり地域活動においても活性化しており、新たな公募申請へとつながった。	ビジネスの手法を用いるため事務手続きが煩雑であるため、継続的な支援の必要性がある。

4 取組効果の評価(アウトカムに対する評価)[上記3の内容も含めて]

項目	ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析	ウ 今後の改善策等
<p>(1)アンケート調査</p> <p>・地域が自律的に運営されていると感じている割合 ○○%以上 ・課題やニーズに応じて中間支援組織から支援を受けていると感じている割合 ○○%以上</p>	<p>◆まちセンの支援は、地域の皆さんの活動の役に立ちましたか？ 78.3%</p> <p>◆まちセンの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組んでいると思いますか？ 55.7%</p> <p>◆今後もまちセンのような総合的・一般的な支援窓口が必要だと思いますか？ 90.3%</p>	<p>2番目の設問については、まちセン事業開始以前から地域活動が活発であったため低い評価に留まったように感じる。 また、自律的という表現がわかりにくいのか、わからないとの回答が23.0%にも上った。</p>	<p>区役所職員と混同されている方も多くみられるため、今後も、地活協周知と並行してまちセンの事業内容についての広報を充実させる必要性を強く感じる。</p>
<p>(2)「自律的運営に向けた地域活動協議会への取組」の達成状況</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催 社会福祉協議会のこれまでの実践ベースを活かしながら『地域編集塾』の手法を用い、構成団体間での情報共有や共感の場を創出し、協働喚起を促すことや定期的な話し合いの場の定着を目的に開催。参加者へのアンケート結果では、『地域編集塾』の手法を用いての定期的な話し合いの場の必要性についての認識も向上している。</p> <p>【区内全体会】 過去3年間に開催した際に導き出されたテーマや現状の地域実情を鑑みテーマ設定し開催。テーマについて、の掘り下げを行い事業案の立案を実施。実現可能な事業案も多く立案された。定期的な話し合いの場の必要性についての着実に認識も向上している。</p> <p>【荏田北ほほえみ協議会】 若い世代が多数出席された『地域編集塾』全体会を受けての開催。ホームページの作成やSNSを活用しての会議案内など具体的で実現可能な事業案が多数立案された。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>【区内全体会】 地域状況応じ、出席者数に偏りがでたものの区内全12地域から総勢66名もの出席があった。地活協の中核を担っている役員層の出席が多いものの、PTAや青少年指導員など若い層への声かけを強く依頼したため、例年に比べ若年層の参加が多くなった。 また、事業案を立案したためより具体的に、地域が活性化されるといった効果が見られた。 また、事業案を発表することで、良い意味での地域間のライバル心が芽生えた。</p> <p>【荏田北ほほえみ協議会】 役員・運営委員以外の方も対象としたため、新たなつながり、また、拡がりが見られた。話し合いの場の重要性を感じていただくことができ、継続的開催の運びとなった。</p>	<p>◆『地域編集塾』の開催</p> <p>事業案の創出を目的とする『地域編集塾』の手法を基本とし、地域に定着する話し合いの場のスタイルを提案していく。 事業案の創出で終わらず、事業案の実現に向けても優先度・時間軸・人数軸等で分析をし、協働(コラボ)先とのマッチングの機会を設けるなど支援を強化していく。</p>
	<p>(2-2)「II つながりの拡充」の達成状況</p> <p>社会福祉協議会の強みを活かし、区社協・地域支援担当など各部門とも緊密に連携しており、地域福祉の取組みや会議にも参画し、つながりの拡充に寄与している。また、区社協全体で地域台帳作成に取り組んでおり、地域診断に反映させ地域ごとのきめの細かい支援につなげていく。</p>	<p>『地域編集塾』等にPTAなど若い層への参加の促しをしたことから、地域内での「つながりの拡充」につながった。今後は、地域診断を活かし、地域ごとに必要なつながり先を共に模索し、情報提供を行う。</p>	<p>相互理解が可能になるような交流の場の提供を行う。</p>
	<p>(2-3)「III 組織運営」の達成状況</p> <p>地域活動協議会会長会においては、毎回まちづくりセンター情報発信の時間を設けていただき、会計・広報・各種事務手続き・会議開催・消費者問題等の会務運営・事業実施に有効な情報発信を行っている。</p>	<p>地域活動協議会のキーパーソンへの支援が未だ比重が重く、活動者レベルまでのきめ細やかな支援には至っていないが、区社協との連携により情報把握に努めている。 地域主催事業への参加や、各事業ごとの仮精算支援などを行うことにより、信頼関係も一段と深まり、会計処理や事務処理等の意識も一段と向上されつつある。</p>	<p>区社協との情報交換・共有をより深め、地域活動協議会キーパーソンと活動者の支援比重を平均化できるよう努める。 また、『地域編集塾』など交流の場を多く提供し、従事することで積極的に活動者との距離を狭める用努める。</p>
	<p>(2-4)「IV 区独自取組」の達成状況</p>		
<p>(3)その他の効果のあった内容</p>			

5 総合評価

総合評価Ⅰ	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	<ul style="list-style-type: none"> 過去に開催した『地域編集塾』におけるキーワードや項目についてデータ整理・カテゴリ分けを行い本年度開催の『地域編集塾』全体会において事業案の立案をめざした 日常的に、運営委員会への参加や来庁・訪問時に情報交換を密に行っている 区社協として全部門が携わり、区内全12地域活動協議会について、地域台帳の作成に取り組んでいる
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	<ul style="list-style-type: none"> 『“地活協”シンポジウム』開催により地活協の法人化やビジネスの手法・新規事業についての理解・周知度が向上した 事業案の立案を目的とした『地域編集塾』のみでなく、負担感を軽減した話し合いの場としてのワークショップの開催支援に力点を置いていく SNSによる情報発信が可能になるよう地域公共人材等を活用し担い手の育成に努める
	(3) 区のマネジメントに合った取組	<ul style="list-style-type: none"> 社会的ビジネスについては、平成28年度は、2事業3地域での取組みであったが、平成29年度については、3事業4地域と拡がりが見られている 『“地活協”シンポジウム』で、実際に地活協をNPO法人化して取り組まれている実践者の話を伺うことによりビジネスの手法についての関心度の高まりがみられる 継続的な支援の結果、補助金会計処理にかかるスキルが向上している
↓		
総合評価Ⅱ	総合評価(全体)	<p>組織運営面としては、申請等事務手続き・会計処理・税務などきめ細かい情報発信や支援等を心がけているため、設立時より着実に根付いており円滑な運営を行えるよう支援ができた。</p> <p>また、『“地活協”シンポジウム』を開催したことで、CB/SBの理解度向上や新たな取組みへの関心が高まり、つながりの大切さが再認識され、地域が活性化すると期待された効果を得られた。</p> <p>若い層の巻き込みについては、『地域編集塾』や『“地活協”シンポジウム』を活用し一定の効果は得られたが、継承していく世代(担い手)に向けた具体的な発掘や育成については、大きな実績をあげられていないため、SNSや広報講座等を開催するなど、具体的な取組みを深めていきたい。</p>